

はじめに

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したものの、感染症は収束することなく、陽性患者の入院受け入れは今もなお継続しています。

そのような状況の中で、一般診療面においては、令和5年2月に内視鏡手術支援ロボットを従来の「ダビンチ Si」から「ダビンチ Xi」に機種更新するとともに、ロボット手術センターを開設し、泌尿器科、外科、婦人科の様々な疾患に対し、患者にとってより身体的負担の少ない手術を実施できる体制を整えました。これにより、ダビンチ手術の総数は導入以来830症例を超えています。また、4月には、人工関節手術支援ロボット「Mako」を北大阪の自治体病院として初めて導入し、それに併せて、人工関節手術センターを開設しました。センターでは、変形した関節をインプラント（人工関節）に置き換える人工関節置換術において「Mako」を用いた手術を積極的に行い、前年度を上回る実績を達成しました。

経営面においては、「第四次箕面市立病院改革プラン策定に向けた経営改善策」に組み、一定の成果は上げたものの、コロナ禍で減少した患者数の回復には至らず、入院・外来収益ともに減少した結果、令和5年度決算は12億8500万円の赤字となりました。

新市立病院の整備にあっては、再編統合及び指定管理者制度による運営を行うこととし、令和5年8月の指定管理者評価委員会で候補者を選定した後、令和6年3月、大阪府医療審議会において、新市立病院の病床数は急性期390床とすることが承認されるとともに、市議会での議決を経て、医療法人協和会を指定管理者として指定しました。新市立病院の整備に向け、令和7年4月から指定管理者による運営を開始するとともに、基本設計、実施設計に着手する予定です。

今後は、指定管理者制度への移行をスムーズに進めるとともに、これまで以上に地域に必要とされる医療機能の確保と質の高い医療の提供を進めることで、公立病院としての役割を果たしてまいります。

令和6年（2024年）8月

箕面市病院事業管理者 大橋 修二
箕面市立病院総長 関本 貢嗣
箕面市立病院長 岡 義雄